

ごみ減量化に一人ひとりが取り組みましょう！

みんなで考えよう シリーズ 4

ごみ処理の現状

市では、長年使用してきたごみ焼却施設に替わる、新ごみ焼却施設建設の検討をすすめています。

ごみの発生抑制や処理については、市民の皆さまのご理解とご協力が必要であり、ごみ処理事業に関する情報をシリーズで提供しています。

今回は、資源リサイクルセンター周辺で現在実施している生活環境影響調査についてお知らせします。

問合せ先 生活環境課 ☎35-3138



資源リサイクルセンター敷地内の大気質調査状況

【写真1】
ダイオキシン類については毎月、その他の物質については、年4回調査します。
大気質は、施設の敷地内のほか、東西南北の住宅地4カ所、搬入車両が通行する道路2カ所で調査します。

水質調査

資源リサイクルセンターの焼却施設および埋立処分地から排出される汚水は、各施設の汚水処理施設で浄化してから市の下水道に放流しています。
念のため、施設から有害成分を含む汚水などが施設外に流出していることがないか、施設の下流に位置している黒岩谷川の水質検査を年2回実施します。

◆予測・影響の分析について

焼却施設のバグフィルターなどで処理を行った後、煙突から大気中に出ていく排ガスは、その時の天候や風向、風速、気温などによって拡散状態が逐次変化します。
晴れていて、風のない日は真上に排ガスが出ていきますが、冬の寒い日は、あまり上空に上がらなかったり、強風によって真横に流れていくようなことも起こります。

そこで、施設周辺の気象状況を把握し、煙突の高さなどの条件を加味した「排ガスの拡散状況」を予測するため、資源リサイクルセンターの敷地内で、1年間にわたり毎時間、風向、風速、気温、湿度、日射量などの地上気象を調査します。

また、排ガスの拡散には、上空の気象状況（上層気象）も影響しますので、夏季と冬季に上空1,500mまでの気温、風向、風速を調査します。【写真2】



資源リサイクルセンター敷地内の上層気象調査状況

◆生活環境影響調査を実施中です

市では現在、ごみ焼却施設の稼働に伴う周辺環境への影響を専門機関に依頼し、調査しています。

ごみ焼却施設には、排ガスに含まれる物質による大気汚染やごみピットなどからの悪臭、洗浄水などによる水質汚濁、設備の稼働に伴う騒音、振動、さらにはごみ搬入車両による騒音、振動、大気汚染など、周辺環境に影響を及ぼす可能性のある要因が存在しています。

これまで、市のごみ焼却施設の稼働においては、法で定められた技術的基準に則り、環境基準値などに適合していることを定期的に確認し、安全で適正な稼働に鋭意努めてまいりました。

今回、ごみ焼却施設周辺にお住いの皆さまの生活環境を保全することを目的として「廃棄物処理施設生活環境影響調査指針」に準じて、大気質、悪臭、騒音、振動などについて、施設の敷地内の他、施設の東西南北に位置する住宅地などで、現況を1年間詳細に調査し、施設の周辺環境への影響を科学的に分析することとしました。

現在行っている、主な調査項目についてお知らせします。

大気質調査

施設周辺の大気の中に、大気汚染物質といわれる窒素酸化物や硫酸酸化物、浮遊粒子状物質、塩化水素の他、ダイオキシン類などがどのくらい含まれているか調査します。

騒音・振動調査

焼却施設で稼働する機械などによる騒音や振動を施設の稼働している時と点検などで休んでいる時と比較調査します。また、ごみ搬入車両による騒音や振動を施設周辺道路2カ所で、夏季と冬季に、それぞれ平日と収集受付が休みとなる日曜日に調査します。

道路の騒音、振動調査にあわせて、交通量調査も行います。これらの騒音、振動および交通量調査は、朝の6時から翌日の朝6時まで24時間実施します。

悪臭調査

施設から悪臭が漏れていたり、排ガスの影響による悪臭が発生していないか確認するため、悪臭調査を毎月実施します。

調査地点の空気を採取して、人間の感覚で「臭いの強さ」を判定する臭気指数（※1）とアンモニアなど特定の悪臭物質がどのくらい含まれているかを分析する特定悪臭物質調査の2つの方法で調査します。

調査地点は、周辺の町内会の公民館の他、地元にお住いの方々のご意見を基に決めています。

※1 臭気指数

臭いは、さまざまな成分が混じって発生しており、分析しても特定の悪臭物質が検出されず実態と合わないことがあります。

そこで、採取した空気の臭いを6人の判定者が嗅いで、どこまで薄めたら感じなくなるかという倍率を求め、数値化したものです。

最後に、このように調査、分析を行っている状況や結果については、まとまり次第、市民の皆さまにお知らせするとともに、施設の周辺環境の保全に活かしてまいります。